

事業年度	毎年2月21日から翌年2月20日まで
定時株主総会	毎年5月開催
基準日	定時株主総会・期末配当金／毎年2月20日 中間配当金／毎年8月20日
公告方法	そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日 電子公告により行ないます。 http://www.palemo.co.jp/

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人および 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	愛知県名古屋市中区栄三丁目15番33号
事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	☎ 0120-782-031

株主優待

当社は株主優待制度として、毎年2月20日現在の株主様名簿に記載された300株以上保有の株主の皆様方に対し、株主様ご優待品を進呈いたしておりますが、2022年6月28日付の開示でお知らせしましたとおり、現在の経営環境並びに将来への成長投資に向け、財務状況を改善することが最優先課題であると考え、慎重に議論を重ねました結果、2023年2月20日を基準とする株主優待より休止することといたしました。

今後も株主の皆様への利益還元を重要な経営課題と位置づけ、企業価値向上に取り組むとともに、株主優待制度につきましては、業績の安定化並びに財務状況の改善を成し遂げたのちに再開させて頂く予定です。

株主の皆様方におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

報告書WEB化のお知らせ

株主の皆様へご送付しておりました報告書につきましては、地球環境等を配慮した省資源化の観点から、第39期第2四半期より紙面による発送を取り止め、当社ウェブサイト(<http://www.palemo.co.jp/ir/stockholders.html>)に掲載することといたしました。株主の皆様方におかれましては、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

上場株式等の配当等に係る10%(所得税7%、住民税3%) 軽減税率の廃止について

2014年1月1日から上場株式等の配当等に係る10%軽減税率(所得税7%、住民税3%)は廃止され、本来の税率である20%(所得税15%、住民税5%)となりました。
これにより、2014年1月1日から2037年12月31日までは「復興特別所得税」を含め20.315%の源泉徴収税率が適用されます。

株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。
証券会社の口座のご利用がない株主様は、左記電話照会先までご連絡ください。

特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といえます。)を開設しております。

株式関係業務におけるマイナンバーの利用

法令に定められたとおり、支払調書には株主様のマイナンバーを記載し、税務署へ提出いたします。

[主な支払調書]

- *配当金に関する支払調書
 - *単元未満株式の買取請求など株式の譲渡取引に関する支払調書
- マイナンバーの利用範囲には株式の税務関係手続きも含まれます。
株主様は、お取引の証券会社等へマイナンバーをお届けください。

株式市場移行のお知らせ

当社株式は、東京証券取引所並びに名古屋証券取引所の市場再編により、東京証券取引所市場第二部からスタンダード市場へ、名古屋証券取引所市場第二部からメイン市場へ移行いたしました。

愛知県ファミリー・フレンドリー企業登録



登録年月日 平成20年2月15日

登録番号 C0024

仕事と生活の調和のとれた働き方ができる職場環境づくりに取り組む
愛知県ファミリー・フレンドリー企業として登録いたしました。

~ Doing it ~

皆様の豊かさ・成長・満足の実現のために



事業構造改革を推進し、本格的な成長に向け前進してまいります

当社グループにおきましては、業績の早期回復を目的に、当連結会計年度を初年度とした「中期経営計画」をスタートしており、アパレル事業の収益改善と雑貨事業の出店拡大を推し進めるほか、コロナ禍における売上高の変動に応じた仕入、在庫管理によるガバナンス体制の強化など各施策に取り組んだ結果、2期連続の赤字から黒字へと回復を果たすことができました。そして「中期経営計画」の2ndステージにあたる今期も、市場環境の変化に対応した事業構造改革による収益構造の転換を推進するとともに、引き続きグループをあげてコスト削減に注力するなど、本格的な成長に向け前進してまいります。

代表取締役社長 **福井 正弘**

指針 正しい経営 | ローコスト経営
安定成長 | 人財経営

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。当社グループ第38期報告書をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

この第38期におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響は続いたものの、行動制限が緩和されたことにより、経済活動は正常化へと近づきました。また、全国的な旅行支援策のほか水際対策の緩和によるインバウンド需要の回復も消費の回復を後押しする結果となりました。その一方で、ウクライナ情勢の長期化、円安、資源高の影響による物価上昇もあり景気後退への懸念も高まるなど、引き続き予断を許さない状況が継続しました。

当社グループが属する専門店業界におきましては、行動制限が緩和されたウィズコロナの定着により、外出の機会が拡大したことで、リアル店舗でのお買い物が見直されるなか、特にファッション関連の需要が回復傾向となりました。

このような環境のなか、当社グループにおきましては、業績の早期回復と収益体質の抜本的な改革を目的とした「中期経営計画」を策定し、強いアパレル事業の再構築と雑貨事業の拡大による収益の二本柱体制へと事業構造改革を推進するとともに、仕入れと在庫の適正化のためのガバナンス体制の強化など各施策を進めてまいりました。

第38期におきましては、アパレル事業における不採算店舗の退店並びに店頭在庫の鮮度改善に努めたほか、雑貨事業における新規出店に加え、アパレル業態から300円均一ショップ

「illusie300(イルーシーサンマルマル)」への業態変更による出店拡大が奏功し、売上高については退店の積み増しの影響から前期実績を下回ったものの、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益については、期初計画を上回る結果となりました。

第39期におきましては、収益の改善が進んだアパレル事業におけるトップラインの向上と、雑貨事業を中心とした成長事業への投資を継続し、収益の二本柱体制を確かなものにしてまいります。

また、今期よりDX(デジタルトランスフォーメーション)化推進の一環として、業務効率の改善並びに販売サービスレベルの向上にも活かすべくデジタルツールの導入を図るなど、オペレーション改革に向けた新たな取り組みにも着手してまいります。

なお当期末配当金につきましては、足元の財務状況を勘案し、前期末に引き続き無配とさせていただきますことを謹んでご報告申し上げます。株主の皆様には深くお詫び申し上げますとともに、厳しい経営環境ではありますが、可能な限り早期に復配ができるよう業績の改善、安定化に向け尽力してまいります。

そして今後も当社グループにおきましては、引き続き企業の社会的使命を重視するとともに、企業統治並びにコンプライアンス体制の強化など企業の質的向上にも努めてまいります。

株主の皆様におかれましては、今後におきましても当社グループの事業戦略に、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Q1 当連結会計年度の業績についてお聞かせください

当連結会計年度の業績は、売上高175億13百万円(前年同期比2.2%減)、営業利益5億27百万円(前年同期は営業損失7億9百万円)、経常利益5億80百万円(前年同期は経常損失6億74百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益5億62百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失13億93百万円)となりました。

当連結会計年度のアパレル事業におきましては、例年ファッション需要が高まるゴールデンウィーク前に気温が上昇したことや、早期に梅雨明けした6月末以降に猛暑となったことから、初夏、夏シーズン商品の需要が高まり売上を伸ばすことができました。また年始以降は寒波の到来により、防寒アウターなど冬物の実需商品の販売が好調に推移するなど、年間を通じて天候に恵まれたことに加え、3年ぶりとなる行動制限のない状態で営業ができたこともあり、収益の改善が進みました。

雑貨事業におきましても、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」において、冷感素材の夏シーズン商品が気温の上昇とともに販売が伸びるほか、不織布のマスクを中心とした衛生関連の商品も安定した売上確保につながるなど堅調な推移となりました。また、行動制限の緩和に伴う外出需要の高まりから、アクセサリやスマホショルダー等、好調な売れ行きとなりました。以上のような状況から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた前年からの反動もあり、全社の既存店売上高前年同期比は、109.1%となりました。

利益面におきましては、アパレル事業における仕入、在庫のガバナンス体制の取り組みが奏功し、シーズン商品の販売が計画通り進みプロパー消化率が高まったことから前期より改善傾向となりましたが、雑貨事業の新規出店に加え、アパレル業態から「illusie300」への業態変更を推進したことにより雑貨事業の売上高構成比が高まったことから、売上総利益率は前期同様の52.2%にとどまりました。また経費面におきましては、不採算店舗の退店を進めることで固定費を削減するほか、本社、本部人員の効率的な配置転換並びに徹底したコスト削減に努めた結果、営業経費は前年同期比85.6%となり、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益のいずれも増益となり、3期ぶりの黒字化を果たすことができました。

店舗の出退店におきましては、「illusie300」を新規で5店舗、アパレル事業におけるEC発のZ世代向けブランド「NOEMIE(ノエミー)」を原宿竹下通りにリアル旗艦店舗として1店舗オープンする一方で、コロナ禍において業績の回復が見送せない店舗を中心に103店舗を退店した結果、当連結会計年度末現在の店舗数は283店舗となりました。

当連結会計年度は新型コロナウイルス感染症再拡大の影響に加え、原価高騰による価格転嫁への対応もありましたが、アパレル事業における仕入、在庫の適正化のためのガバナンス体制強化により、店頭在庫の鮮度改善が図られたほか、雑貨事業による出店拡大が奏功し一定の成果をあげることができました。そして中期経営計画の2年目となる今期におきましては、更なるアパレル事業の収益改善を図るとともに、引き続き雑貨事業の収益拡大に努めてまいります。

Q2 「中期経営計画」の進捗についてお聞かせください

「中期経営計画」の2年目にあたる今期につきましては、引き続き強いアパレル事業の再構築と雑貨事業の更なる拡大により、収益の二本柱体制を確かなものにするべく、「事業構造改革の推進(事業ポートフォリオの再構築)」、「ガバナンス体制の強化(変化対応力の強化による業績安定化)」、「成長戦略(出店戦略、EC販売強化)」の3つに取り組み、最終年度の2025年2月期の計画達成に向け収益構造の更なる転換に努めてまいります。

「事業構造改革の推進」につきましては、アパレル事業における不採算店舗の退店による固定費削減に加え、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」への業態変更を推進したことにより、コロナ禍における収益の改善が図られました。今期におきましては、原価高騰における価格転嫁への影響、行動制限の緩和に伴う外出需要の高まりに対応した抜本的なMD(マーチャンダイジング)改革の推進により、トップラインの向上に努めてまいります。また雑貨事業におきましても、ウィズコロナの定着による巣ごもり需要から外出需要への移行に伴い、時流に合わせた品種構成の見直しや、新規お取引先様の拡充等を進めております。

「ガバナンス体制の強化」につきましては、売上高の変動に応じた仕入、在庫管理体制が構築されており、各部署、部門からの複数の目によるチェック体制を強化しております。前期におきましては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響に加え原価高騰による価格転嫁への対応などがありましたが、適正な在庫コントロールに努めたことによりシーズン在庫についても計画通りの推移となりました。今期におきましてもアパレル事業、雑貨事業ともに適正な仕入、在庫管理の精度を高め、トップラインの向上と値下げ抑制によりプロパー消化率を上昇させることで、売上総利益率の確保に努めてまいります。

「成長戦略」につきましては、「illusie300」におきまして、新規出店やアパレル業態からの業態変更により店舗数を拡大し収益の安定化が図られました。今期におきましては、「illusie300」の次なる目標である売上高100億円体制に向け既存店の活性化と権事を含めた新規出店を強化し、更なる収益の拡大に向け経営資源を集中してまいります。また、昨年10月にオープンしたアパレル事業におけるEC発のZ世代向けブランド「NOEMIE(ノエミー)」についても、ネット通販、リアル店舗ともに業績は順調に推移しております。今後も更なる認知度向上と新規顧客の獲得により収益の拡大に努めるとともに、主力のラージサイズ業態につきましても、SNSなどを活用した集客の拡大を図ります。

以上、今期におきましては、新型コロナウイルス感染症の長期化に加え、物価高による消費者の生活防衛意識の高まりなど、引き続き厳しい環境が続くことを前提に、今期の業績予想につきましては、売上高169億円(前年同期比3.5%減)、営業利益6億35百万円(前年同期比20.5%増)、経常利益6億5百万円(前年同期比4.2%増)、親会社株主に帰属する当期純利益5億65百万円(前年同期比0.5%増)を見込んでおります。

アパレル事業の概況 General Condition of Apparel Business

アパレル事業におきましては、長引く新型コロナウイルス感染症の影響から、新規出店を抑制するとともに不採算店舗の退店を進め、収益の改善に努めてまいりました。

当連結会計年度におきましては、行動制限の緩和に伴う外出着需要の高まりから客数は回復傾向となり、今後ますますリアル店舗の重要性が高まると考えております。今期につきましても、引き続き店頭在庫の鮮度改善に注力するほか、マーケットニーズに対応した付加価値の高い商品の提供と、店舗におけるサービスレベルの向上を図り、更なる収益改善に努めてまいります。

Recherie リシェリエ



「フェミニン」をキーワードに、ベーシックでリラックス感のある大人のカジュアルスタイルを提案します。

Re-J リジエイ / SUPURE スプル



《Re-J》「デイリー&リラックス」をテーマに、ベーシックアイテムとシーズントレンドを程よくMIXした「大人カジュアル」を提案するラージサイズSHOPです。

《SUPURE》「フェミニン&カジュアル」をテーマに、上品さと着心地を大切にラージサイズSHOPです。

Ludic Park ルディックパーク



遊び心を程よく取り入れた自分らしいファッションを、楽しくセレクトできるショップです。エレガンス・クール・カジュアルまで幅広い客層へ向けた最新トレンドと、着まわしのきくベーシックアイテムをお手頃プライスで提案します。

木糸土 モクシド / Hare no hi ハレノヒ



《木糸土》木・糸・土の素材を活かし、「無理なく、無駄なく」をコンセプトに、シンプルで飽きのこない生活雑貨を提案します。

《Hare no hi》「ナチュラルライフ」をテーマに、アパレル、雑貨をトータルにコーディネート。ライフスタイルを提案します。

GAL FIT ギャルフィット



「フェミニン&クール」をテーマに、リラックス感のあるカジュアルスタイルとエッジの効いたモードスタイルを提案します。

Lilou de chouchou リルデシュシュ



いつまでもかわいく輝いていたい女性に向けて、毎日のHAPPYを演出します。エレガンスをベースに程よくトレンドを織り交ぜながらON&OFFあらゆるシーンも自分らしく楽しめる上品で女性らしいファッションを提案します。

NOÉMIE ノエミー



普段も特別な日もかわいくいたい。扉を開くたびに「ときめきを感じる」お洋服で、クローゼットをいっぱいになりたい。そんな、あなたの願いに寄り添えるように「愛らしくて愛嬌のある魅力的な女の子」をテーマに、お砂糖菓子みたいな甘さと、ちょっぴりダークでかわいらしさのあるお洋服をあなたに提案します。



DAISY MERRY デイジーメリー



大人の心と少女の心を持ち合わせたいくつになってもかわいくオシャレでいたい女性に向けて…
かわいだけでなく、どこかボーイッシュ、ほんのリガーリーと、遊び心を取り入れた今欲しいリアルクローズを手頃なプライスで提案します。

SUZUTAN スズタン



「エレガシー&フェミニン」をテーマに、幅広い客層へ最新トレンドと着まわしのきくベーシックアイテムを提案します。

アパレル事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
レギュラー店舗	1	82	△13	118
ルディックパーク	0	8	△1	33
リルデシュシュ	0	4	0	2
デイジーメリー	0	1	0	3
リシェリエ、ドスチ	0	8	△4	22
ギャルフィット・スズタン他	0	57	△7	50
木糸土・ハレノヒ(※1)	0	4	△1	7
ノエミー	1	0	0	1
ラージサイズ店舗	0	12	0	9
アパレル事業合計	1	94	△13	127

(※1) 第36期より「木糸土・ハレノヒ」をアパレル事業に含んでおります。

雑貨事業の概況 General Condition of Miscellaneous Goods Business

雑貨事業におきましては、300円均一ショップ「illusie300(イルーシーサンマルマル)」の出店が進行しており、コロナ禍におきましても前期末の128店舗から144店舗へ着実に拡大を続けております。

当連結会計年度におきましては、「illusie300」を5店舗出店、アパレル業態から「illusie300」への業態変更を13店舗実施しており、収益の二本柱体制に向け積極的な事業構造改革を進めております。

今期につきましても「illusie300」に経営資源を集中し、商品MD(マーチャンダイジング)のブラッシュアップを図るとともに、既存店舗の底上げによる収益の更なる拡大に努めてまいります。

illusie300 イルーシーサンマルマル



「日常に彩り」をテーマに、300円のプチプライスでライフスタイルを提案します。

INCENSE インセンス



「MY BAGを探す楽しさや、見つけた時の喜びを共有できるBAG SHOP」。自分のスタイルを確立した大人の男女に、「オンリーワン」のバッグを提案します。

雑貨事業ブランド別の状況

(単位:店舗)

	出店	退店	ブランド転換	当期末店舗数
イルーシーサンマルマル	5	2	13	144
インセンス	0	6	0	8
シベレット	0	1	0	1
雑貨事業合計	5	9	13	153
複合店(※2)	0	0	0	3
全社合計	6	103	0	283

(※2) 複合店とは、アパレル事業、雑貨事業のブランドを複数合わせた店舗です。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当連結会計年度 (2023年2月20日現在)	前連結会計年度 (2022年2月20日現在)
■資産の部		
流動資産	5,609	5,707
固定資産	3,159	3,510
有形固定資産	927	1,064
無形固定資産	62	83
投資その他の資産	2,169	2,363
資産合計	8,769	9,218
■負債の部		
流動負債	6,959	7,498
固定負債	563	1,301
負債合計	7,523	8,799
■純資産の部		
株主資本	1,232	382
資本金	100	100
資本剰余金	2,249	1,981
利益剰余金	△1,111	△1,673
自己株式	△5	△25
新株予約権	13	35
純資産合計	1,245	418
負債及び純資産合計	8,769	9,218

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当連結会計年度 2022年2月21日から 2023年2月20日まで	前連結会計年度 2021年2月21日から 2022年2月20日まで
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	207	△158
④ 投資活動によるキャッシュ・フロー	362	107
⑤ 財務活動によるキャッシュ・フロー	264	125
現金及び現金同等物の増減額	835	74
現金及び現金同等物の期首残高	2,209	2,135
現金及び現金同等物の期末残高	3,044	2,209

連結損益計算書

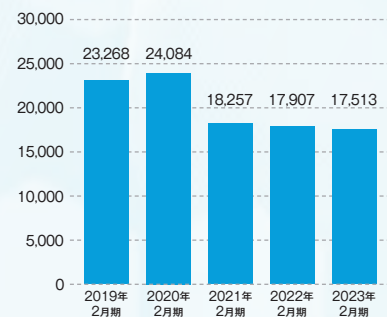
(単位:百万円)

	当連結会計年度 2022年2月21日から 2023年2月20日まで	前連結会計年度 2021年2月21日から 2022年2月20日まで
① 売上高	17,513	17,907
売上原価	8,372	8,552
売上総利益	9,141	9,354
販売費及び一般管理費	8,614	10,063
② 営業利益又は損失(△)	527	△709
営業外収益	104	71
営業外費用	50	36
経常利益又は損失(△)	580	△674
特別利益	17	15
特別損失	132	671
税金等調整前当期純利益又は純損失(△)	465	△1,331
法人税、住民税及び事業税	13	16
法人税等調整額	△110	45
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(△)	562	△1,393

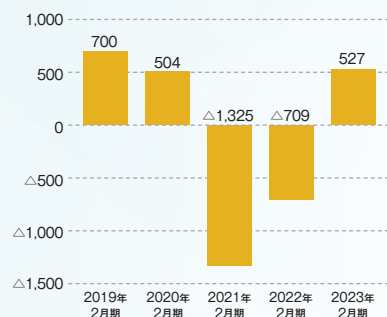
POINT

- 売上高は前連結会計年度に比べ3億93百万円減少の17億513百万円となりました。これは主に、行動制限の緩和に伴う外出需要の高まりに加え、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた前年からの反動もあり既存店売上高前年同期比が109.1%と堅調に推移したものの、不採算店舗退店の積み増しにより店舗数が減少したことによるものです。
- 営業利益は前連結会計年度に比べ12億36百万円増加の5億27百万円となりました。これは主に、不採算店舗の退店による固定費削減に努めるほか、徹底したコスト削減による営業経費の削減効果によるものです。
- 営業活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ3億65百万円増加の2億7百万円の収入となりました。これは主に、税金等調整前当期純利益4億65百万円の計上、減価償却費2億20百万円の計上、棚卸資産の減少額3億49百万円による資金の増加があった一方、仕入債務6億7百万円の減少によるものです。
- 投資活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ2億55百万円増加の3億62百万円の収入となりました。これは主に、新設、既存店舗の改装など有形固定資産の取得による支出1億82百万円、退店による差入保証金の回収8億86百万円によるものです。
- 財務活動によるキャッシュ・フローは、前連結会計年度に比べ1億39百万円増加の2億64百万円の収入となりました。これは主に、株式の発行による収入2億65百万円によるものです。

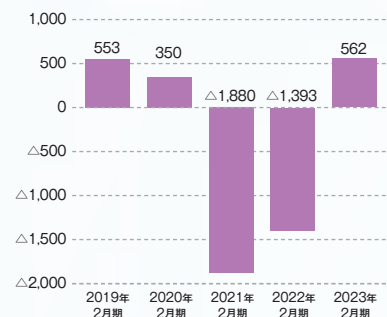
売上高 (百万円)



営業利益(損失) (百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益(損失) (百万円)



会社概要 (2023年2月20日現在)

社名 パレモ・ホールディングス株式会社
 設立 1984年11月22日
 資本金 1億円
 本社所在地 〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅五丁目27番13号 名駅錦橋ビル6F
 従業員数 1,572名(グループ含む)
 (ナショナル社員135名、エリア社員他1,437名)
 事業内容 事業子会社の経営管理等
 ホームページ <http://www.palemo.co.jp/>

役員 (2023年5月18日現在)

代表取締役社長 福井正弘
 取締役 香西雅弘
 取締役 太田直人
 取締役 永田昭夫
 取締役 赤塚憲昭
 常勤監査役 土田新一郎
 監査役 今枝剛
 監査役 川口直也

注: 取締役のうち、永田 昭夫、赤塚 憲昭の両氏は社外取締役であります。
 監査役のうち、今枝 剛、川口 直也の両氏は社外監査役であります。

株式情報 (2023年2月20日現在)

発行可能株式総数	普通株式	27,350,000株
	A種優先株式	10,000株
発行済株式の総数	普通株式	12,051,384株
	A種優先株式	265株
株主数	普通株式	9,339名
	A種優先株式	1名

大株主 (2023年2月20日現在)

株主名	普通株式 持株数 (千株)	持株比率 (%)
株式会社西松屋チェーン	2,087	17.35
BNY GCM ACCOUNTS M NOM	796	6.62
トラストワークスプランニング株式会社	285	2.37
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	275	2.28
JPモルガン証券株式会社	245	2.03
NOMURA PB NOMINEES LIMITED OMNIBUS-MARGIN(CASHPB)	242	2.01
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	210	1.75
パレモ従業員持株会	195	1.62
日本証券金融株式会社	176	1.46
UBS AG LONDON A/C IPB SEGREGATED CLIENT ACCOUNT	156	1.30

注: 持株比率は、当事業年度の末日における発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する割合であります。

株主構成 (2023年2月20日現在)

